

令和 2 年 4 月 29 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04784

研究課題名(和文)「教師のキャリアステージに応じたキャリア発達プログラムの開発」

研究課題名(英文) Development of career development programs according to the career stages of teachers

研究代表者

三村 隆男 (MIMURA, TAKAO)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：10324021

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：研究の成果は以下の三つである。学習指導要領が改訂され、中央教育審議会答申が出されていく過程の中で教師がどのように自らのキャリア形成を果たしていくかを検討した。米国キャリア教育における、キャリア・テクニカル教員認証の研究及び韓国を含むアジア10か国の学校教育におけるキャリア教育について比較検討をおこなった。教職大学院学部等新卒学生における教育活動全般にわたる学校マネジメント力の育成をめざしたテキストを完成させ、そのテキストを使用したプログラムづくりに入った。2019年度は、プログラムをもとに、免許更新講習及び教職大学院自由選択授業を企画し、2020年度には実施に移すこととなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

変化が激しく予測不可能未来社会において、自立的に生き社会の形成に参画する児童生徒の教育を担う教員の育成を、個人のキャリア形成と養成・研修を行う教育行政や教育機関との関連でとらえ、その課題を解明し、教師のキャリアステージに応じたキャリア発達プログラムを開発したことはその社会的意義は高いといえる。

特に2008年に創設され、わが国初の修士レベルの教員養成を目指した専門職大学院である教職大学院の教員養成の機能におけるキャリアステージに応じ開発した教員の育成プログラムは今後、高度な専門職業人として教員を位置づける上で重要な役割を果たすであろう。

研究成果の概要(英文)：The followings are the three results of this research. (1) In the process of revising the curriculum guidelines and reporting to the Central Council for Education, we examined how teachers would achieve their career development.(2) Research on career technical teachers' credential in US career education and a comparative study on career education in school education in 10 Asian countries including Korea was conducted.(3) We completed a textbook aimed at developing school management skills for new graduate students of Graduate School for Teacher Education and entered into a program development using the textbook. In FY 2019, we planned a license renewal course and a class for teaching graduate schools based on the program, and we have reached the point where it can be implemented in FY 2020.

研究分野：教育学、キャリア教育、キャリア・カウンセリング、職業指導史

キーワード：キャリアステージ キャリア形成 教職大学院 学校マネジメント

1. 研究開始当初の背景

2015年の中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学びあい、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」では、これからの時代の教員に求められる資質能力として、キャリアステージに応じた資質能力を高める自律性、深く知識を構造化する力、学校を取り巻く新たな教育課題に対応する力などを求めた。

こうした取組みを進めるには、日本の教師を取り巻く環境における教師のキャリア形成研究から着手し、わが国固有の教師のキャリアステージに応じたキャリア発達プログラムの必要性を感じ申請を行った。その後、首都圏を中心に、キャリアステージとして教育管理職を選択する者が減少している課題が浮上した。そこで本研究は、キャリアステージを教育管理職に至るステージに焦点化し、これまで想定されてこなかった教職大学院における学部等新卒学生を対象としたキャリア発達プログラム開発に特化することとする。

2. 研究の目的

社会の変化に対応するため児童生徒には21世紀型の力を育成する必要があり、教師には教職生活を通じ学び続ける資質・能力を総合的に育成することが求められている。この課題に応えるためには、教師自らが教師のキャリアを主体的に作り上げる姿勢が強く望まれる。

本研究は、教師のキャリアステージを教職大学院における養成段階に特化し、将来の教育管理職へのキャリア・パスをいかに構築するかを論点とし、そのキャリア発達プログラムを開発することを目的とする。教育管理職を構造化し、養成段階から教師が自らを振り返り成長を達成できる資質能力を育成し上記の課題に応えていきたい。

3. 研究の方法

目的を達成するため、以下の5つの方法を講じる。

- (1)教職大学院修了者追跡調査をもとに、わが国の教職大学院学部新卒学生における教育管理職への意識について正確に理解する。
- (2)上記の調査結果を分析し、養成段階のキャリアステージにおける教育管理職への志向性及びニーズを分析する。
- (3)上記の研究結果をもとに、学部新卒学生の志向性、ニーズに応えた教育管理職について学ぶプログラムを開発し、そのテキストを作成する。
- (4)研究の成果を逐次報告しながら新たな知見を得る。
- (5)養成段階のキャリアステージにおけるキャリア発達プログラム開発研究について海外、主に米国および韓国における調査研究による新たな知見を得る。

4. 研究成果

- (1)教職大学院学部等新卒学生の教育管理職への意識調査(予備調査として)

A 大学大学院教職研究科における二度にわたる修了者の報告書(修了者追跡調査報告書1(2014)、修了者追跡調査報告書2(2015))をもとに、学部等新卒学生の修了者に存在する教育管理職のキャリア・パスへの興味を確認した。一方で、首都圏を中心に教育管理職希望者が減少傾向にあることを勘案し、教職大学院養成段階のキャリアステージにおける教育管理職へのキャリア・パス構築を企図したプログラム開発に着手した。2016年10月にA大学教職大学院の学部新卒者の1年生を対象に、教育管理職への志向性について、先の追跡調査結果をもとに8項目を設定し質問紙調査を実施した。各項目相互の一元配置の分散分析をおこなった結果、教育管理職に対し、教育管理職を目指す前の進路情報として、教育管理職の職務の理解を位置づけている「教育管理職キャリア・パス検討群」と、教育管理職の興味があり、教育管理職をキャリア・パスと想定している「教育管理職キャリア・パス準備群」とに分けられた。ただしサンプル数が少なく、仮説の域を出ないが、予想外に、学部新卒学生に教育管理職への志向性が存在する知見を得た。

教師のキャリア形成についての文献研究などを通し、学校教育全体を俯瞰し、学校のリアリティに接し今日的な課題に対峙できる教職大学院の学修環境は、教育管理職教育を通し、その後のキャリア・パスの中でそれらを醸成し、教師としての在り方への主体的選択を果たす可能性を有し、また、Gelatt(1962)の示した認知的情報処理過程を促進するよりよい要件を備えていると判断するに至った。教職大学院の養成段階で、教育管理職のキャリア・パスの情報を中心にプログラムを開発することは、教職生活の中で自らのキャリア・パス選択にあたり、自己理解やキャリアへの情報理解を深めたうえで意思決定が可能となる。そのことで、その後の教育管理職のキャリアにおいてよりミスマッチを低減できる可能性も新たに生まれた。本研究の成果は、三村隆男ら(2017)にて公表した。

- (2)教職大学院学部等新卒学生の教育管理職への大規模調査

上記(1)の研究成果をもとに2017年「教育管理職についての調査:学部等新卒学生(ストリート・マスター)対象」を実施した。実施概要は以下である。

調査対象:2017年4月現在で、学部等新卒学生が1、2学年そろっている45教職大学院

調査方法：各教職大学院に学部等新卒学生数の調査・回答用紙を送付し、無記名で回収。

調査実施：2017年7月実施。

回収率：45教職大学院中30大学院から576件の回答があった。回収率は49.7%。

調査内容：教育管理職への志向の程度にしたがって因子を想定し、計12項目を設定した。

これらを主因子法による因子分析を行い、教育管理職への志向の段階に基づいて第2因子まで採択し、バリマックス回転を実施した。その結果得られた因子は、第1因子「教育管理職志望」（「将来は教育管理職を目指したい」・「教員として教育管理職を選択肢の一つとしている」・「教育管理職になり学校を営営することが夢である」）、第2因子「教育管理職検討」（「今は教育管理職について考えていないが、今後の成り行きによって考えるかもしれない」・「人から勧められたら教育管理職を考えるかもしれない」・「優れた教育管理職に出会うことで、教育管理職になろうと考えるかもしれない」と命名した（表1）。この結果は、(1)で行った予備調査結果、「教育管理職キャリア・パス検討群」「教育管理職キャリア・パス準備群」を支持する結果となった。

表1 教育管理職志向尺度の因子分析結果

	教育管理職志望	教育管理職検討
将来は教育管理職を目指したい	.894	.318
教員として教育管理職を選択肢の一つとしている	.804	.384
教育管理職になり学校を営営することが夢である	.778	.293
今は教育管理職について考えていないが、今後の成り行きによって考えるかもしれない	.178	.709
人から勧められたら教育管理職を考えるかもしれない	.386	.702
優れた教育管理職に出会うことで、教育管理職になろうと考えるかもしれない	.473	.669

の定量的調査結果を考察するため、定性的調査も実施した。「教育管理職等のキャリア・パス情報（なり方・職務など全般）についての授業を、現職用ではなく学部新卒学生用（ストレート・マスター）用として設置することについてご意見がありましたらお書きください」との問いで記述を求めた。この自由記述に対し、学部新卒学生から180件の回答があった。回答の記述について、川喜田二郎（1967）によるKJ法で分類した。分類作業に携わったのは、A大学の学部新卒学生7名であった。記述を読み取り分類する上で、立場や経験知が近いいため妥当な分類が可能になるからとの理由であった。KJ法によるグルーピングは、教育管理職について知識を深めるための教職大学院における授業に対し肯定か否定かに着目して行なわれた。記述はその内容により12に分類され、それぞれの内容により教育管理職授業への肯定、条件付き肯定、否定、その他と類型化された。肯定及び条件付き肯定を合わせると全体の77.2%を占めることが分かった。（表2）本研究の成果は、三村隆男ら（2018）にて公表した。

表2 教育管理職授業の設置について肯定・否定（N=180）

肯定・否定	代表的記述	度数	合計	度数及び百分率（%）	
肯定	学校への還元につながる	4	108	139(77.2%)	
	自分のキャリア・プラン上で重要	18			
	情報として皆知っておくべき	26			
	多少の知識としてもっているほうがよい	50			
	理由はないがあるとよい	10			
条件付き肯定	授業を担当する講師の質による	17	31		
	希望者による選択制ならば	13			
	管理職不足を改善する目的ならば	1			
否定	現時点では必要ない	16	23		23(12.8%)
	そもそも要らない	7			
否定	興味なし	15	18	18(10.0%)	
	情報がなく考えられない	3			

(3)上記の研究結果をもとに、学新卒学生のニーズに応えたテキストを開発する。

教職大学院の養成段階の院生に対する教育管理職教育のプログラム開発及びテキスト作成

養成段階の教職大学院の学部新卒学生が抱える教育管理職への志向を現場に出ても失わず、来るべき教育管理職へのキャリア・パス選択の場面で適切に選択能力を発揮できるよう、(2)の結果を基に教職大学院の学部新卒学生を対象としたカリキュラム開発を行った。カリキュラム開発においては、現段階では養成段階における教育管理職教育のカリキュラムが存在しないため、文献調査、あるいは米国カリフォルニア州における teacher credential 制度を研究し、内

在するキャリア形成の視点を学び、管理職教育研究者UCバークレー校、ミントロップ(Dr. Mintrop, R.)教授への聞き取り調査を行うなど、養成段階における学校マネジメント教育の知見を広げた。

結果、カリキュラムについては、日常の教育活動から学校マネジメントに関する知識・技能を身に付けるしくみ作りを中心に据え、プログラム項目を、1 教育課程の編成・実施、2 教科指導、3 総合的な学習の時間、4 道徳教育・道徳の時間、5 学校行事・生徒会、6 学級経営・ホームルーム経営、7 キャリア教育・進路指導、8 特別支援教育、9 部活動指導、10 生徒指導(生活指導)、11 健康安全指導、12 校務の処理・校務分掌、13 保護者対応、14 地域社会との連携、15 予算管理、16 人事管理、17 経営企画室(事務室)運営、18 その他教育課題への対応、の18に分けた。日々の教育活動を、視点を変えることで学校マネジメントの視座を得ることができるようなプログラム開発を行った。

テキスト作り

の18項目について、テキスト作りにはそれぞれの分野の専門家が必要であり、項目を分担してカリキュラムをカバーする内容での作成を依頼した。テキストの特徴としては、小学校から高等学校までの学校段階を亘った教育内容をそろえることとした。さらに、それぞれの項目に学校マネジメントの視点を入れ、あらゆる教育活動を俯瞰的に見た経営視点でその展開を読み込むように工夫した。本テキストは、三村隆男編著(2019)にて出版されている。

(4) 研究の成果を逐次報告しながら新たな知見を得る。

2016年シンガポールのNIE(National Institute of Education)から地域のキャリア教育実践とかわかるスタッフのキャリア形成についての原稿依頼を受け、「Exemplary Career Educational Practices of Joetsu City in Japan」のタイトルで地域の実践の成果を公表する機会を得た。なお、こうした養成段階のキャリアステージから、教職生活を見渡した育成指標も並行して作成を進めている。2016年10月は、日本キャリア教育学会第38回研究大会にて「教師のキャリア形成と教職大学院」のタイトルで会員企画シンポジウムを開催し参加者との意見交換を実施、11月には、IAEVG International Conference in Madridにて、「The Ideas and Actions for Social Justice at the Beginning of Vocational Guidance in Japan」にて、キャリア教育に携わる者に共通して必要な社会正義の概念を歴史的な変遷の中で検討した。2017年10月は、日本キャリア教育学会第39回研究大会会員企画シンポジウム「教師のキャリア・パスとしての教職大学院」を開催した。2018年10月のIAEVG International Conference in Swedenにて、「Action Oriented Research on Creating a New Pathway to an Administrative Career in Teacher Education Focusing on the Professional Graduate Schools for Teacher Education in Japan」のタイトルにて、その時まで判明した教職大学院調査の研究結果発表を行い、多くの意見交換を行った。同年12月開催のアジアキャリア発達学会(ARACD)セミナーにて「日韓ラウンドテーブル」を開催し、日本と韓国の様々なキャリア教育従事者のキャリア形成について議論を行った。また同月開催された日本キャリア教育学会第40回研究大会にて、「キャリア教育の充実と職業の扱い - 米国カリフォルニア州におけるキャリア・テクニカル教育を参考に - 」にて、米国カリフォルニア州の教員免許について発表を行った。翌年、2019年8月に開催された日本キャリア教育学会国際交流セミナーにて、学習アプローチにおける教員のカリキュラム・マネジメントについて、パネリストとして発表した。9月には、米国カリフォルニア州立ロングビーチ校にて、学部、大学院の授業に参加し、養成段階の教師のキャリア形成について観察を行った。こうした研究成果を逐次発表及び意見交換の過程は、本研究への多面的、多元的な視点を育成した。

(5) 養成段階のキャリアステージにおけるキャリア発達プログラム開発研究について海外、主に米国および韓国の研究者と共同研究を行った。

2016年9月延世大学学校教育大学院への訪問による修士レベルにおける教員養成とキャリア形成について知見を広め、2017年3月及び、2017年9月の米国訪問では、カリフォルニア州立大学ソノマ校の教員養成を視察し、米国の教員養成システムと管理職養成について知見を広めた。2018年は、カリフォルニア州立大学バークレー校で、大学を超えた教員養成とキャリア・テクニカル教育におけるセカンド・キャリア教師(教職以外のキャリアをもった教員)のキャリア形成や教員資格への理解を広げ、2019年には、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校にて、生徒のキャリア形成に携わる教員養成段階の学生に対する授業参加を行い、その成果を上記(1)~(3)の一連のプログラム開発に生かし、現段階で、教師のキャリア発達フェーズを6段階に設定した育成指標の作成を進めている。

(6) 今後の研究計画

本研究課題「教師のキャリアステージに応じたキャリア発達プログラム」では、教職大学院の学部新卒生を対象に、学校マネジメント教育を通して、教育管理職へのキャリア・パスを吟味させるべく、プログラム開発、テキスト作成まで到達した。2019年度は、2018年度終了予定の研究費未使用分があり、新旧の科研費研究が重複したが、2020年からは、科研費基盤研究(C)の採択課題「教師のキャリア・ステージにおけるコンピテンシー研究による21世紀型教員の質保証」への円滑な移行を研究上進めることにする。さらに、開発したプログラムを免許更新講習及び大学院の自由選択の授業を通して実践し、プログラム実行過程で修士レベルの教員養成にお

いて育成を求めるコンピテンシーを同定していく。21 世紀型教員の質保証については、GAFA に代表される ICT 先端地域であり GDP 世界第 5 位の米国カリフォルニア州における教員養成研究をもとに、これからの産業を支える人材づくりに資する教員養成の視点、及びそれを支える教育管理職の在り方について検討を進めていく。

(7)研究成果報告書の発行

各年度の研究成果を以下の冊子に掲載し毎年、年度末に発行することで公開してきた。早稲田キャリア教育研究第 8 巻（平成 29 年 3 月発行）、早稲田キャリア教育研究第 9 巻（平成 30 年 3 月発行）、早稲田キャリア教育研究第 10 巻（平成 31 年 3 月発行）、早稲田キャリア教育研究第 11 巻（令和 2 年 3 月発行）

<引用・参考文献>

Gelatt, H. B. (1989). Positive uncertainty: A new decision making framework for counseling. *Journal of Counseling Psychology*, 36, 255.

川喜田二郎(1967) . 発想法、中公新書、東京：中央公論社 .

三村隆男、岡田芳廣、小山利一、細谷美明、羽入田眞一、遠藤真司、藤原善美（2017）. 教職大学院の学部等新卒学生におけるキャリア・パスの研究 - 教育管理職へのキャリア・パスに焦点をあて -、早稲田大学大学院教職研究科紀要第 9 号、53-72.

三村隆男、岡田芳廣、小山利一、細谷美明、羽入田眞一、遠藤真司、藤原善美（2018）. 教職大学院の学部新卒学生におけるキャリア・パスの研究 - 教育管理職養成聞き取り調査や教職大学院学部新卒学生調査をもとに -、早稲田大学大学院教職研究科紀要第 10 号、27-41.

三村隆男（編著）岡田芳廣、小山利一、高橋あつ子、細谷美明、羽入田眞一、遠藤真司、藤原善美（2019）. 早稲田学術双書 38 新学習指導要領準拠 学校マネジメントの視点から見た学校教育研究 優れた教師を目指して、全 270 頁、学文社 .

三村隆男（2019）. 米国カリフォルニア州におけるキャリア教育とキャリア・カウンセリング、日仏教育学会年報、26(48)、54-58.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 三村隆男	4. 巻 64
2. 論文標題 キャリア教育における「主体的・対話的で深い学び」の本質は何か	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 指導と評価	6. 最初と最後の頁 18-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 三村隆男	4. 巻 782
2. 論文標題 AI時代に対応した進路指導・キャリア教育の在り方	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中学校	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 三村隆男	4. 巻 10
2. 論文標題 キャリア教育とどうしようもない力 David A. JepsenによるCareer As Story理論を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 早稲田キャリア教育研究	6. 最初と最後の頁 101-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 三村隆男	4. 巻 10月号(754号)
2. 論文標題 学校におけるキャリア教育の展開	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 指導と評価	6. 最初と最後の頁 18-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） ISSN0288-299X	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三村隆男他6名	4. 巻 第10巻
2. 論文標題 教職大学院の学部新卒学生におけるキャリア・パスの研究 -教育管理職養成聞き取り調査や教職大学院学部新卒学生調査をもとに-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院教職研究科紀要	6. 最初と最後の頁 27 41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三村隆男	4. 巻 No. 1030
2. 論文標題 世の中の動き、職業世界に関心をもつ 「工場見学」を通じたキャリア教育から	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 児童心理	6. 最初と最後の頁 29-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) ASIN: B01KTWZ6RK	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三村隆男、岡田芳廣、小山利一、細谷美明、羽入田眞一、遠藤真司	4. 巻 第9号
2. 論文標題 教職大学院の学部等新卒学生におけるキャリア・パスの研究-教育管理職へのキャリア・パスに焦点をあて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院教職研究科紀要	6. 最初と最後の頁 53-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) ISSN 1883-664X	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三村隆男	4. 巻 1月号
2. 論文標題 「キャリア教育」の基礎知識とその意義	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教職研修	6. 最初と最後の頁 54-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) ASIN: B01M9EMUVS	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三村隆男	4. 巻 57巻2号
2. 論文標題 キャリア教育 キャリア教育と道德教育の連携	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 道德教育	6. 最初と最後の頁 18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) ASIN: B01MZXYVBR	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三村隆男	4. 巻 特集号
2. 論文標題 社会や職業の実際について学ぶ意義 金融教育をキャリア教育の視点で考える、しごと能力研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 しごと能力研究	6. 最初と最後の頁 34-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三村隆男	4. 巻 26(48)
2. 論文標題 米国カリフォルニア州におけるキャリア教育とキャリア・カウンセリング、日仏教育学会年報	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日仏教育学会年報	6. 最初と最後の頁 54-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) ISSN 1341-0814	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三村隆男	4. 巻 38(1)
2. 論文標題 (翻訳)日本キャリア教育学会第40回研究大会基調講演「My Life and Career Journey in the US and Japan」ダリル・T・ヤギ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 キャリア教育研究	6. 最初と最後の頁 17-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) ISSN 1881-3755	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三村隆男	4. 巻 1
2. 論文標題 学校教育における経験を変える 学びと仕事をつなぐLinked Learning	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 先端教育	6. 最初と最後の頁 70-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takao Mimura, Hyuncheol Kim	4. 巻 8(1)
2. 論文標題 A Preliminary Comparison of Career Education for Youth among Ten Asian countries: A Synthesis of Country Reports from the 2017 ARACD Conference	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Indian Journal of Career and Livelihood Planning	6. 最初と最後の頁 23-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三村隆男	4. 巻 11
2. 論文標題 平成期と進路指導・キャリア教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院教職研究科紀要	6. 最初と最後の頁 35-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) ISSN 1883-664X	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 三村隆男、藤原善美
2. 発表標題 Action Oriented Research on Creating a New Pathway to an Administrative Career in Teacher Education: Focusing on the Professional Graduate Schools of Teacher Education in Japan
3. 学会等名 Conference of the International Association of Educational and Vocational Guidance (IAEVG) in Sweden (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三村隆男
2. 発表標題 キャリア教育の充実と職業の扱いー米国カリフォルニア州におけるキャリア・テクニカル教育を参考にー
3. 学会等名 日本キャリア教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三村隆男
2. 発表標題 Educational Problems and Career Education in Japan
3. 学会等名 2017 NYPI & ARACD CONFERENCE in SEOUL :Career Education and VET(Vocational Education & Training)for Youth in Asia (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三村隆男
2. 発表標題 How does ARACD contribute to Asia?
3. 学会等名 2017 NYPI & ARACD CONFERENCE in SEOUL :Career Education and VET(Vocational Education & Training)for Youth in Asia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三村隆男
2. 発表標題 学校教育における【一般陶冶】と【職業陶冶】 学校教育におけるキャリア教育の成立から次期学習指導要領までを眺めて
3. 学会等名 日本キャリア教育学会第35回研究セミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三村隆男
2. 発表標題 韓国・シンガポールのキャリア教育の動向
3. 学会等名 日本キャリア教育学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 三村隆男
2. 発表標題 The Development of Career Education and Social Justice in Japan
3. 学会等名 日本キャリア教育学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 三村隆男
2. 発表標題 The Ideas and Actions for Social Justice at the Beginning of Vocational Guidance in Japan
3. 学会等名 Conference of the International Association of Educational and Vocational Guidance (IAEVG) in Madrid (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Takao Mimura, Hyuncheol Kim
2. 発表標題 Comparison of career education for youth among Asian countries
3. 学会等名 Conference of the International Association of Educational and Vocational Guidance (IAEVG) in Bratislava (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三村隆男
2. 発表標題 学校職業指導導入期における大阪市少年職業指導研究会の成立
3. 学会等名 本キャリア教育学会第41回研究大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 三村隆男（編著）、岡田芳廣、小山利一、高橋あつ子、細谷美明、羽入田眞一、遠藤真司、藤原善美	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 270
3. 書名 新学習指導要領準拠 学校マネジメントの視点から見た学校教育研究-優れた教師を目指して-	

1. 著者名 三村隆男他6名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 著者出版	5. 総ページ数 22
3. 書名 教職大学院学部等新卒学生（ストレート・マスター）対象教育管理職教育への志向調査結果報告書	

1. 著者名 三村隆男（編著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 著者出版	5. 総ページ数 90
3. 書名 早稲田キャリア教育研究第11巻	

1. 著者名 三村隆男（編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 著者出版	5. 総ページ数 120
3. 書名 早稲田キャリア教育研究第10巻	

1. 著者名 三村隆男（編著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 著者出版	5. 総ページ数 96
3. 書名 早稲田キャリア教育研究第9巻	

1. 著者名 三村隆男（編著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 著者出版	5. 総ページ数 90
3. 書名 早稲田キャリア教育研究第8巻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----